



ドクター和の

ニッポン

長尾和宏(ながおかずひろ)
医学博士。公益財団法人日本
尊厳死協会副理事長としてリビ
ング・ウィルの啓発を行う。映画
『痛くない死に方』『けっぴな
町医者』をはじめ出版や配信な
どさまざまなメディアで長年の
町医者経験を活かした医療情報
を発信する傍ら、ときどき音楽
ライブも。

359

漫才師 今くるよ

命日に感じたコンビの深い絆

2500人の患者さんをお看取りしてきたので、確率的に言えば当たり前なのかもしれませんが、ときどき旅立ちの日付のご縁を感じることがあります。

「おじいちゃんとおばあちゃん
は、同じ日に旅立ちました」

「兄弟が同じ命日になりました」
そこに何か不思議な縁を感じてしま
うのが人間というものです。

関西・女性漫才コンビの先駆けであ
った「今いくよ・くるよ」さん。出会
いは高校のソフトボール部。いくよ
さんが、「私ピッチャーでエース。く
るよちゃんキャッチャーでローズ」
とボケて、くるよさんが突っ込むギ
ャグが大好きでした。いくよさんが
亡くなったのは、2015年5月28日。享
年67。死因は胃がんでした。

その通夜で、「日本一の相方とや



ってこれで、私ホンマに幸せやっ
た。真っすぐに天国に行っていただ
きたい。素晴らしい人でした」と語
っていた、相方の今くるよさん。

それから9年たった今年5月27
日、大阪市内の病院で亡くなりまし
た。享年76。死因は膵(すい)が

ん。たった一日違いの命日に、コン
ビの絆の深さを感じたのは僕だけで
はないでしょう。

膵臓がん(膵がん)が増えています。日本では、30年前の10倍以上に増加しているといわれています。確かに、僕の友人、知人でも膵臓がんで亡くなった人が立て続けにいました。

「がん=治らない」と考える時代はとっくに終わったと思いますが、膵臓がんだけは、5年生存率は男女ともに10%以下で、全がんの中でもっとも低いがんとして知られています。いまだ治療が難しい「難治がん」なのです。しかし、膵臓がんになるリスクを減らすことはできます。

僕は数年前に『糖尿病と膵臓がん』(ブックマン社)という本を書きました。糖尿病になると、膵臓がんになる確率が2倍に増えることが

わかっています。さらに糖尿病の発症から1~3年がもっとも膵臓がんになりやすいのです。

糖尿病が急に悪化した場合(ヘモグロビンA1cの数値が急に悪化するなど)は、膵臓がんのサインである可能性も高いです。そして、糖尿病の治療を続けながらのがん治療は、いろいろな制約が伴います。これが生存率を妨げている理由の一つでもあるでしょう。すなわち糖尿病を予防すること、悪化させないことが膵臓がんのリスクを下げることに直結します。基本は食事の改善と、歩くこと。

くるよさんに糖尿病があったかどうかはわかりません。しかし晩年はかなりお痩せになられていた印象がありました。

久しぶりに天国で再会されたであろうお二人。あの世で制限なく、好きなだけ美味しいものを食べてほしいです。